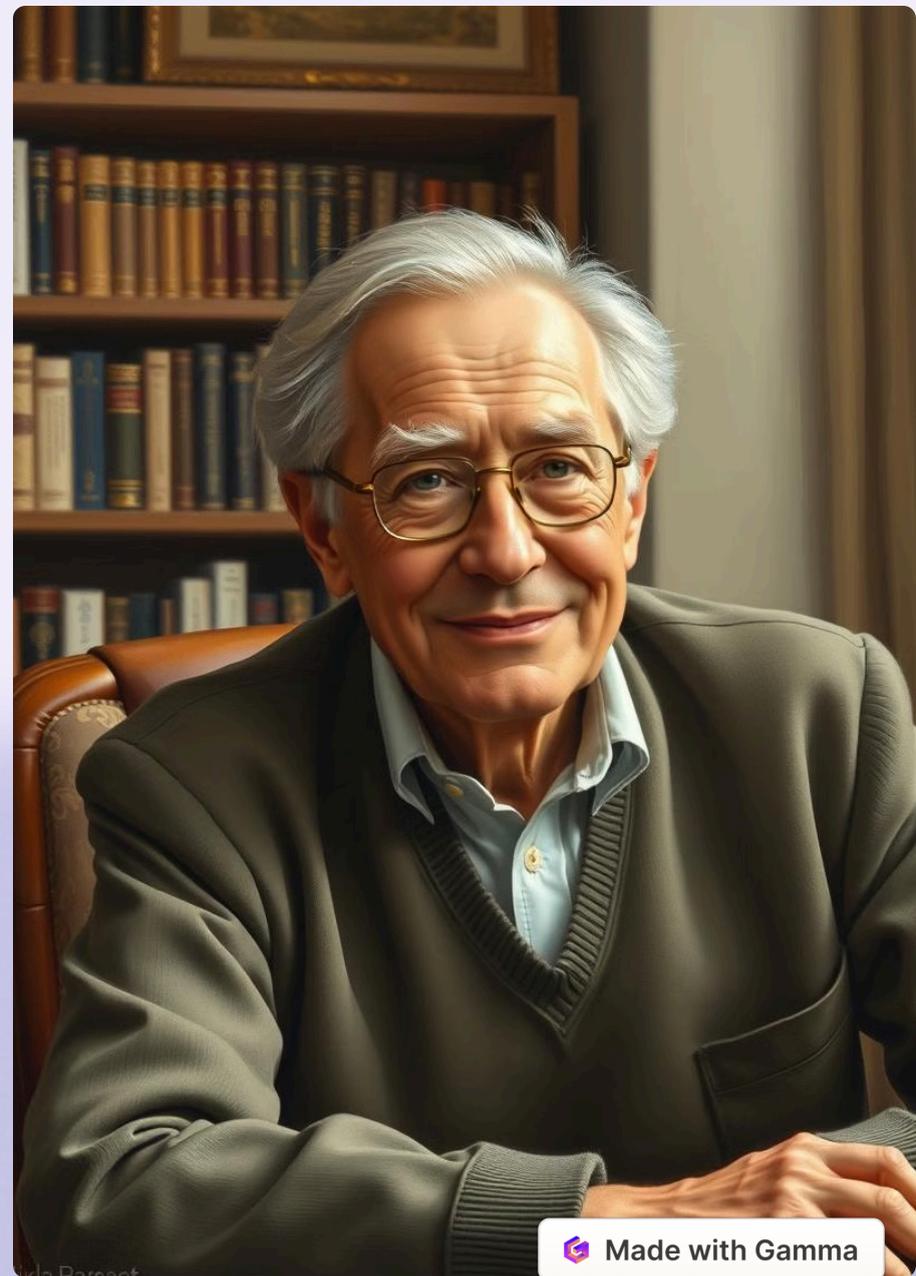


# カール・ロジャースの 人間中心療法

カール・ロジャースは、クライアント中心療法の創始者として知られる心理学者です。彼の革新的なアプローチは、心理療法の分野に大きな影響を与えました。

ロジャースの理論を学ぶ



# ロジャースの初期の経験

1

## 伝統的な児童指導

ロジャースは、伝統的な児童指導方法があまり効果的でないことを学びました。

2

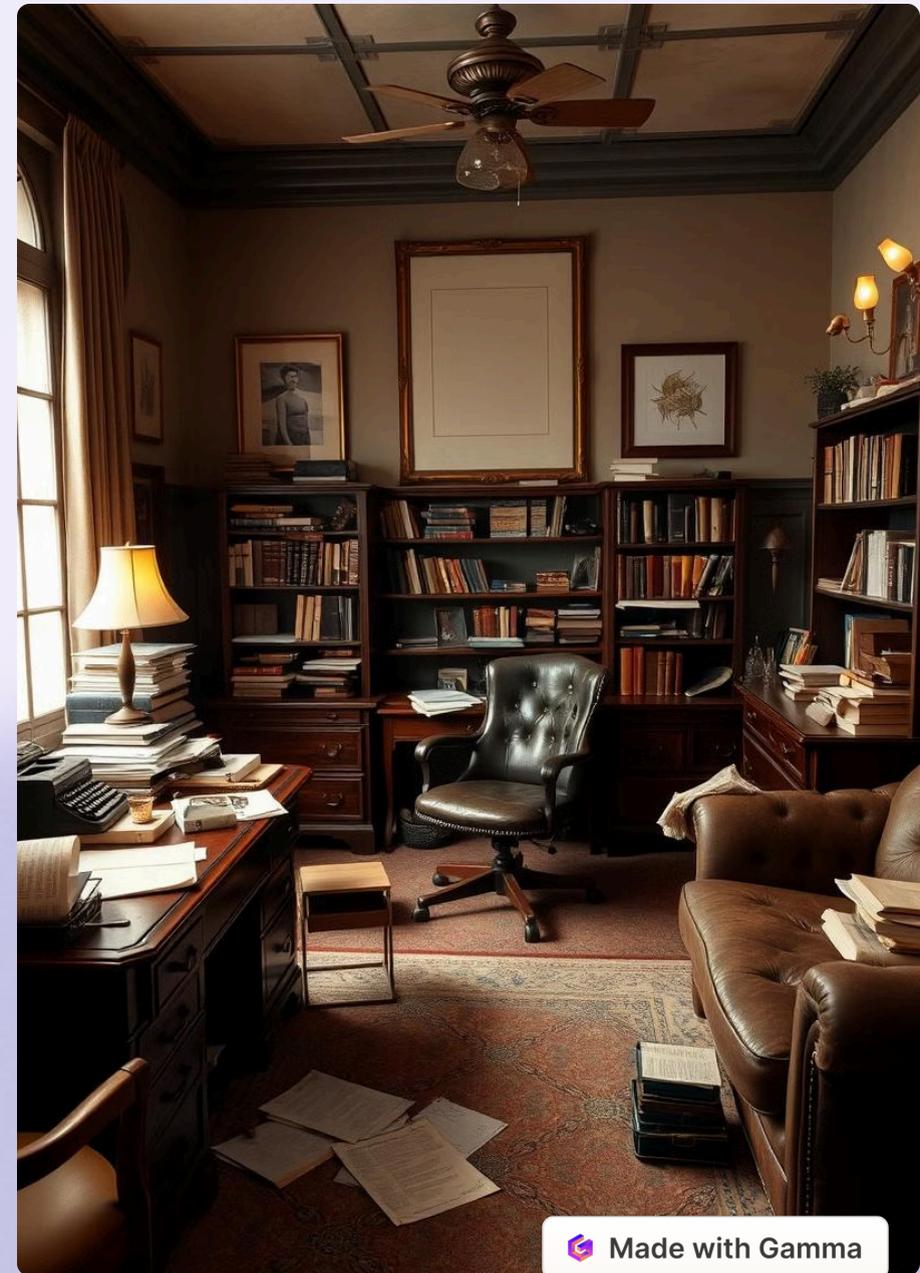
## 新しいアプローチ

クライアントの指示に耳を傾け、従うことを試みました。

3

## オットー・ランクの影響

ランクの理論が、ロジャースの非指示的療法の原則に影響を与えました。



# ロジャースの家族背景

## 宗教的原理主義

ロジャースの両親は、勤勉と責任を重視しました。

## 家族の絆

親密さと献身を特徴としていましたが、愛情表現は控えめでした。

## 農場での経験

高校時代、ロジャースは家族の農場で働き、科学的側面に興味を持ちました。



# 教育と初期のキャリア

1

## ウィスコンシン大学

農学から歴史学に専攻を変更しました。

2

## ユニオン神学校

心理学のコースを受講し、興味を深めました。

3

## コロンビア大学

ティーチャーズ・カレッジで心理学を学びました。

4

## ロチェスター児童指導センター

12年間働き、管理者になりました。

# クライアント中心療法の誕生

## ▼ 1940年のミネソタ大学でのプレゼンテーション

「心理療法におけるいくつかの新しい概念」と題された講演は、クライアント中心療法の誕生と最も頻繁に同一視されます。

## ▼ 『カウンセリングと心理療法』の出版

1942年に出版されたこの本には、電子的に記録された8回の面接事例が含まれています。

## ▼ 研究の開始

心理療法のプロセスと結果に関する先駆的な博士論文が始まりました。

# シカゴ大学での発展

## 理論の成長

クライアント中心の理論、哲学、実践が大きく発展しました。

## 研究の進展

心理療法の研究が深まり、多くの重要な論文が発表されました。

## 応用の拡大

カウンセリングオフィスを超えて、様々な分野に応用されました。

# ウィスコンシン大学での研究

1

## 統合失調症患者への適用

患者中心のアプローチが統合失調症患者にも効果があるか研究しました。

2

## 共感の重要性

最も成功した患者は、高度な正確な共感を経験した患者でした。

3

## クライアントの視点

治療関係の成功は、クライアントの判断とより高い相関関係がありました。

# カリフォルニアでの活動



## 教育改革

個人中心のアプローチを教育と教育行政に適用しました。



## 出会いグループ

グループセラピーの新しい形態を発展させました。



## 著作活動

「静かな革命」に関する本を執筆しました。

# 国際紛争解決への貢献

南アフリカ

人種間の対話促進

東ヨーロッパ

冷戦後の和解支援

アイルランド

カトリックとプロテスタントの対話

中米

地域紛争の解決支援



# ロジャースの遺産



## 心理療法への影響

クライアント中心療法は、現代の心理療法に大きな影響を与えています。



## 教育への応用

ロジャースの理論は、教育分野でも広く応用されています。



## 国際関係への貢献

個人中心アプローチは、国際紛争解決にも活用されています。